

## 第7回 K.CAT フォーラム(まちづくり提案型市民フォーラム)開催の報告

平成 10 年 12 月に発足してから今年で早や 8 年目を迎える K.CAT『ケー・キャット:「金沢(Kanazawa)の都市(City)と(And)交通(Transportation)を考える会」が平成 18 年 2 月 12 日に第 7 回目の市民フォーラムを開催した。K.CAT とは、日頃から金沢のまちづくりに関わる学識者、地元経済人、国・県・市の行政マン、地元コンサルタント技術者が一個人として、それぞれの役職・立場を離れた中で集まり、専門的・多角的な視点から、金沢の都市と交通のあり方に関する方向性や施策の提言を行うこと、ならびに市民への提案と啓発を行うことを目的に、自主的な活動を行っている NPO 活動団体である。

### 1. これまでの K.CAT フォーラム

これまで、6 回の市民フォーラムを開催して来ており、第 1 回目の市民フォーラム(平成 11 年 12 月 11 日、参加者 117 人)では、「金沢のバス交通を考える～まちからバスが消えるとき～」と題して、「バス交通優先派」と「自動車交通優先派」の 2 組に分かれて、ディベート形式で金沢の交通問題を議論した。第 2 回市民フォーラム(平成 13 年 1 月 14 日、参加者 151 人)では、「中心市街地を考える～まちからにぎわいが消えるとき～」と題して、「郊外開発推進派」と「中心市街地活性化派」の 2 組に分かれて、金沢の都市(まちづくり)問題を議論した。

第 3 回市民フォーラム(平成 14 年 2 月 17 日、参加者 160 人)では、「バス交通税?あなたは支払えますか?～バス事業のあり方を一緒に考えましょう～」と題して、バス事業への「税金投入派」と「独立採算派」に分かれて、やはり金沢の公共交通問題のあり方について議論した。第 4 回市民フォーラム(平成 14 年 12 月 8 日、参加者 125 人)では、「金沢の歩きたくなるまちづくりを考える」と題して、3 組のまちづくり提案を議論した。

第 5 回市民フォーラム(平成 16 年 2 月 29 日、参加者 105 人)、第 6 回市民フォーラム(平成 17 年 2 月 27 日、参加者 117 人)においても、それぞれ金沢のまちづくりと交通問題について議論し、市民への提案と啓蒙を行った。

### 2. 第 7 回 K.CAT フォーラム

今年度は、「2020 年 交通が金沢を変える」と題して、「金沢外環状道路開通を活かしたまちづくり提案」と「北

2006 年 2 月 12 日(日)13:00-16:00 会場:金沢市文化ホール  
陸新幹線金沢開業を活かしたまちづくり提案」の 2 組に分かれて、それぞれまちづくりの提案を行い、その提案内容を評価委員(金沢大学大学院教授 木俣昇氏、野村證券株式会社金沢支店長 首藤秀司氏、社団法人金沢青年会議所経済政策委員長 辻 匡氏)ならびに会場の参加者に評価してもらうことで、参加者一人ひとりが、楽しみながらまちづくりについて考え、問題意識を持つことを目指した。フォーラムでは金沢大学の高山純一がコーディネータを務め、国土交通省金沢河川国道事務所長の伊藤正秀氏にフォーラム全体のコメントをお願いした。



写真 - 1 第 7 回 K.CAT フォーラム

入場者数は過去最高を記録し、182 名(一般:98 名・学生:56 名・関係者:28 名)であった。各グループのまちづくり提案の後に行った会場投票結果(1 回目)は、外環状組:79、新幹線組:72 であり、外環状組の方が若干リードしたが、登壇者によるディベート後に行った会場投票結果(2 回目)では、外環状組:48、新幹線組:88(引き分け:4)となり、評価委員の評価結果(外環状組:5、新幹線組:25)を考慮すると最終的には、外環状組:53、新幹線組:113 となり、新幹線組のまちづくり提案を支持する人が多いという結果となった。

今回取り上げたテーマが、この 4 月に全線開通が予定されている外環状道路山側幹線と平成 26 年までには金沢駅までの開業が決まっている北陸新幹線としたことが市民の関心呼び、入場者数も過去最高を記録したものと考えられる。

(文責:高山純一(金沢大学))